

免疫血清部門

尿一般部門

病理部門

細胞診部門

血液一般部門

生化学部門

先天性代謝異常部門

細菌部門



性器クラミジア感染症の概要と臨床【後編】

～クラミジア感染症 最近の傾向と動向～

検査 1 科血清係

今月号では、最近問題となっているクラミジアによる咽頭感染の実情とその背景、およびクラミジアを中心に性行為感染症（以下 STD）の感染防止についてお話しいたします。

1. クラミジア・トラコマティス(以下C.トラコマティス)による咽頭感染の実情とその背景

最近、若者を中心とした性行動の多様化と風俗産業の多様化により口腔性交（以下オーラルセックス）が定着したため、C.トラコマティスの咽頭感染を認める症例が増加しています。国立感染症研究所の病原微生物検出情報 2004 年 8 月号に、岐阜大学医学部附属病院の三嶋廣繁氏らが 2002 年に実施した C.トラコマティスの咽頭感染に関する興味深い調査結果が掲載されていますので、以下にご紹介します。

(1) 性行為、特にオーラルセックスの実態に関する調査（表 1 参照）

表 1 は、風俗産業従事者（Commercial Sex Worker: 以下 CSW）でない性体験のある一般女性 122 名を対象に実施されたアンケート調査結果です。この結果からわかるように、オーラルセックスは若い世代ほど一般化してきており、現在では性行為において、ごく普通の行為として定着している感があります。しかし、C.トラコマティスの咽頭感染が認められる例でも、無症候性であることが多く、これがクラミジア感染拡大の一因になっていると考えられています。

表 1 CSW でない一般女性 122 名を対象に行った性行為の際のオーラルセックスの実態に関するアンケート結果

	20歳未満	20歳～29歳	30歳以上	全体
必ず行う	15	25	7	47
50%以上の割合で行う	5	31	10	46
行うことがあるが、その頻度は50%以下である	3	9	7	19
行わない（経験がない）	—	4	6	10
合 計	23	69	30	122

(単位: 人)

出所: 参考資料 7

(2) 子宮頸管と咽頭のC.トラコマティス感染状況調査結果（表2参照）

表2は、CSW85名とCSWでない一般の女性76名における子宮頸管と咽頭の感染状況を示しています。子宮頸管にC.トラコマティスの感染が認められた女性は、CSWで32%、一般女性で11%、咽頭に感染が認められた女性は、それぞれ18%、2.6%でした。また、子宮頸管にC.トラコマティスの感染が認められた例のうち咽頭にも感染が認められた例は、CSWでは56%、一般女性でも25%を占めていました。

表2 CSWとCSWでない一般女性における子宮頸管と咽頭のC.トラコマティス感染状況

		20歳未満	20歳～29歳	30歳以上	全体
CSW 85名	子宮頸管	10/28 (35.7%)	15/50 (30.0%)	2/7 (28.6%)	27/85 (31.8%)
	咽頭	6/28 (21.4%)	8/50 (16.0%)	1/7 (14.3%)	15/85 (17.6%)
	咽頭陽性/ 子宮頸管陽性	6/10 (60.0%)	8/15 (53.3%)	1/2 (50.0%)	15/27 (55.6%)
一般女性 76名	子宮頸管	4/21 (19.0%)	3/37 (8.1%)	1/18 (5.6%)	8/76 (10.5%)
	咽頭	1/21 (4.8%)	1/37 (2.7%)	0/18 (0%)	2/76 (2.6%)
	咽頭陽性/ 子宮頸管陽性	1/4 (25.0%)	1/3 (33.3%)	0/1 (0%)	2/8 (25.0%)

出所:参考資料7

(3) クラミジア感染症例（子宮頸部陽性・咽頭陽性）の治療効果比較（表3参照）

咽頭感染の治療は、性器感染の場合に比べ治療に時間がかかるといわれています。実際、三嶋氏らが検討した3種類の薬剤においても、「性感染症 診断・治療 ガイドライン 2008」の指針（日本性感染症学会）に従い、C.トラコマティスの治療を実施した場合、表3のとおり子宮頸部感染例での除菌率は検討した全例で100%でしたが、咽頭感染例での除菌率は全体の85%前後にとどまることが確認されました。

表3 クラミジア感染(子宮頸部陽性・咽頭陽性)症例の各種治療方法の比較

治療方法		子宮頸部	咽頭
㊦	アジスロマイシン 1000mg 単回投与	7/7 (100.0%)	6/7 (85.7%)
㊧	クラリスロマイシン 400mg 分2 7日間	12/12 (100.0%)	10/12 (83.3%)
	クラリスロマイシン 400mg 分2 10日間	8/8 (100.0%)	8/8 (100.0%)
	クラリスロマイシン 400mg 分2 14日間	7/7 (100.0%)	7/7 (100.0%)
㊨	レボフロキサシン 300mg 分3 7日間	12/12 (100.0%)	10/12 (83.3%)
	レボフロキサシン 300mg 分3 10日間	8/8 (100.0%)	8/8 (100.0%)
	レボフロキサシン 300mg 分3 14日間	7/7 (100.0%)	7/7 (100.0%)

*レボフロキサシンは、現在、剤型変更のため500mgの1日1回7日間投与に変更されています。
(性感染症 診断・治療 ガイドライン 2011に記載)

㊩…ガイドラインで推奨されている治療指針

出所:参考資料7

2. 定点把握性感染症4疾患の最近の動向(性器クラミジア感染症を中心に)

国立感染症研究所感染症情報センターにより解析された、定点把握感染症 4 疾患の最近の動向（1987～2009年までの22年間）を図1にお示しします。

性器クラミジア感染症は、男女とも2002年までの増加から2003年に減少に転じ、その後は減少が続いています。特に女性では6割近い減少が認められています。

2000～2009年までの報告数を年齢別にみると、男性では20～30代が、また、女性では10代後半～20代にピークを示しています。このことから女性も男性よりも感染年齢層が低いことがわかります。

ここ最近、性器クラミジア感染症が減少している背景には、性感染症対策の効果が表われ、社会全体にSTDに対する理解が進んできたとも考えることができます。しかし、集計されるサーベイランスデータはあくまでも定点からの報告数であり、以下のような場合には実態把握が難しく、集計データとして反映されにくいことも視野に入れておくことが大切です。

▼サーベイランスデータに反映されにくい実態把握の難しい例

- ・症状が明確にならないまま気づかずに感染源になっているような場合
- ・社会の中に潜行し、届出から漏れる場合
- ・性感染症としての受診行動に結びつきにくい低年齢層

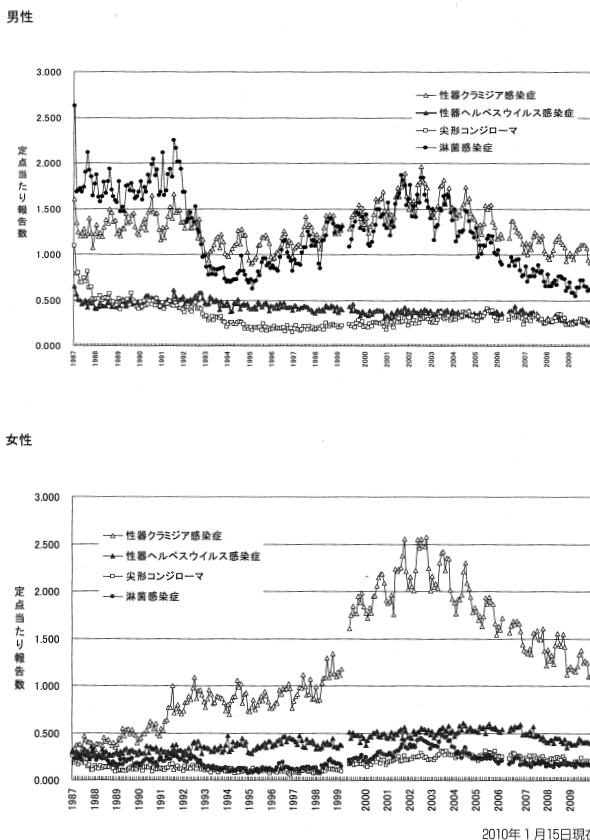


図1 感染症発生動向調査による定点把握性感染症の年次推移
出所: 参考資料 3

3. クラミジア感染症からSTD全体の感染予防を考える

①コンドームが STD 予防に有用であることを普及啓発する

性器クラミジア感染症を含むほとんどの STD は、性交渉において最初から最後までコンドームをきちんと使用すれば、かなりの確率で防止することができます。

②低年齢層に対する STD 予防教育を充実させる

感染症発生動向調査（国立感染症研究所）によりますと、多くの STD で 10 代前半の報告が認められています。したがって、中学生の段階からの STD 予防教育が急務であるとされています。

③ピンポン感染の防止に留意する

自分の治療が完了しても、またパートナーを通じて再感染（ピンポン感染）してしまうことを防止するには、パートナーがたとえ無症状であっても検査を受け、クラミジア感染が判明すれば必ず二人同時に治療することが大切です。

④STD に感染すると HIV に感染しやすくなることを認識する

クラミジア感染症に限らず STD にかかると感染箇所の粘膜が障害されるため、HIV に感染しやすくなるといわれています。したがって、STD 対策を総合的に進めることは、HIV 対策としても有効であると考えられます。

⑤早めの受診で早期発見して早期治療する

STD は自覚症状に乏しいことが多いため、感染の可能性がある場合やわずかでも症状がある場合には、早目の医療機関受診が重要です。

STD の感染が疑われる場合には検査による早期診断が必須であり、私たちの業務である臨床検査が STD 蔓延防止に果たす役割は非常に大きいものと考えております。

今後ともご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。

参考資料:

1. 桑原正雄: 症例報告 感染症を知るシリーズ(第8回) 性器クラミジア感染症(広島市医師会臨床検査センター), 2007年5月発刊
2. 疾患別診断と治療—性器クラミジア感染症(日本性感染症学会誌/性感染症 診断・治療 ガイドライン 2008 および 2011), 2008 および 2011
3. 岡部信彦・多田有希: 発生動向調査から見た性感染症の最近の動向(日本性感染症学会誌), 2011
4. 松田静治: 性感染症検査—性感染症の最近の動向(東京都予防医学協会年報), 2009
5. 三嶋廣繁 他: クラミジア咽頭感染の現状(アボット 感染症アワーより), 2005
6. 性器クラミジア感染症について(横浜市衛生研究所/横浜市感染症情報センター), 2005
7. 病原微生物検出情報(IASR): クラミジア咽頭感染の実情(国立感染症研究所感染症情報センターホームページ), 2004
8. 病原微生物検出情報(IASR): 性感染症 2007年現在(国立感染症研究所感染症情報センターホームページ), 2008
9. 感染症発生動向調査週報(IDWR): 感染症の話—性器クラミジア感染症(国立感染症研究所感染症情報センターホームページ), 2004

担当: 藤井ひとみ/熊川良則(血清係)
文責: 山崎雅昭(検査科技師長)
前田亮(臨床部長)
監修: 松本幸嗣先生(松本クリニック院長)

《予告》

次号は尿一般部門から、「大腸がん検診」をお届けいたします。